

**食品リサイクル問題を解決し、LPガス消費量を拡大する  
高付加価値型食品残渣処理システムの開発調査**

1. 実施者           キヨエイ株式会社  
                          (住 所) 福岡市博多区東光 2-20-28  
                          (代表者) 志岐 功

2. 調査概要

(1) 調査の目的

- ① 食品リサイクル法における外部環境及び食品残渣処理実態の把握をする。
- ② 電気式処理機が大半をしめる食品残渣処理に対して、LPガス式食品残渣処理の優位性の確認をする。
- ③ 上記の調査実施し最適システムの検討をする。

(2) 実施方法

- ① 外部環境及び食品残渣処理実態の把握  
自治体・国の食品残渣処理行政の動向、「食品リサイクル法」に対する認識度普及度の調査、環境意識度調査、食品残渣処理の実態調査、食品残渣処理機導入実態の調査等の項目をDMによるアンケート調査、訪問によるヒアリング調査を中心に実施する。
- ② LPガス式食品残渣処理の優位性の確認  
LPガス熱源の処理機の検証を行うため、LPガス食品残渣処理機にて実証を行う。内容は、設置方法、操作性、処理時間、臭気、振動・騒音、生成品の品質、残渣減量率、ランニングコスト、環境貢献度、投資回収等の項目を実証確認する。
- ③ 最適システムの検討

調査の内容	調査の対象	調査の方法
最適設備とのマッチングの検討	コージェネ廃熱との連携 有効活用の検討 バルク及び付帯設備検討	顧客訪問ヒアリング 設置スペース実査 専門家検討依頼
ハード問題点の解決	実証で確認された課題の 解決	課題改善会議 専門家助言
リサイクルシステムの 検討	生成品利用農家 食品残渣排出事業者	訪問ヒアリング

### 3. 調査結果の概要及び得られた効果

食品残渣処理に対する意識・対応の実態を自治体、排出事業者、処理機導入事業者、LPガス販売事業者等の観点から調査を実施し、その実態、問題点を明確化することができた。

また、LPガスを熱源とする処理設備の実機によるデータの収集を行い、LPガス式処理設備のメリット、デメリットを具体的な数値で検証、評価ができた。

他方、同設備に対しLPガス販路での取り組みが可能なビジネスモデルをみいだすことができた。

### 4. 調査結果の今後の活用、調査結果を踏まえた今後の取組み

処理機販売事業の展開にはリサイクルシステムの安定循環が不可欠である。一方で特に食品加工を生業とする企業においてはLPガスは少なからざる関係を有する立場にある。我々LPガス業界においてはこの有効な経営資源に、更に地域密着型という歴史を絡ませ時流に乗った新事業の展開が可能だと判断する。

現在、LPガス業界には新規分野への開拓の意識、行動改革が要求されている。我々プロジェクトは今回の補助事業・研究事業を終えて、本研究の事業が、現在のLPガス業界人にとって求められている変化の対象として、十分に取組みが可能な領域であるという感触を得ることが出来た。

### 5. 補助金確定額

8,641,630円